	学級活動		児童会活動	○	学校行事	別紙様式２

令和３年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原小学校	校長	石川　順雄	生徒指導主事	渡邉　良平

取組事例名	『児童の主体性を高める宿泊学習　～コロナ禍における取組～』

取組における育てたい資質・能力

課題解決力		思考力・表現力		人間関係力	
主体的に考え，実行する力	1	論理的な見方・考え方	2	コミュニケーション力	3

取組のねらい

コロナ禍による行動制限下にも実施できる活動を，児童が主体的に考え，自ら行動する宿泊学習にする。また，行事で培った力を総合的な学習の時間と関連させる。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『自分たちで作る火種』 『あきらめない，頼らない』
○火起こし体験 ・身近なものを活用して火を起こし，自分たちの炊事に役立てる計画を立てる。これまでの学習を想起し，火起こしできそうな道具や方法を考え，実施する計画をした。 ・具体的には，虫眼鏡で光を集めたり，物を擦り合わせて摩擦熱を利用したりする方法を考え，実施した。 ・炊事のために起こした火を，夜の活動まで維持するために，自分たちでできることはないか考え，調査活動を行ったり，計画を立てたりした。 ○ＳＤＧｓとの関連性を作る ・総合的な学習の時間に取り組んでいるＳＤＧｓと関連させ，今後も自分たちの生活に活かせる点を探して，応用してみる活動を計画した。 ・具体的には，落ち葉を集めて細かくすり潰し，固形燃料を製造した。またその固形燃料を炊事に活用した。また，火種を維持し，夜の活動につなげた。 ・自らの生活を振り返り，ガスや電気などの豊かさを感じるとともに，今後の暮らしに目を向け，持続可能な社会の発展に必要なエネルギーについて主体的に考えた。	『自分たちで作る火種』 ・テレビで放送していた固形燃料の取組を児童が発見したことをきっかけに，火を起こすことやＳＤＧｓに興味をもたせた。 ・児童が自分たちで作成したいという願いを引き出し，自分たちでできる制作過程を考えたり，身近な材料を集めたりするなど，主体的な学習につながるように支援した。 『あきらめない，頼らない』 ・これまでに学習したことや自分たちで情報を集めた情報が実際の場面で活用できるか，体験活動を通して確かめられるように支援した。体験活動では，簡単に火がつかないことから，あきらめないで取り組む大切さを学べるように導いた。

取組の成果と課題

○児童の気づきから学習をスタートさせ，児童が自ら進んで情報を集めたり，繰り返し試行錯誤したりする学習を通して，自分たちの力で課題を解決しようとする力がついた。また，宿泊学習で学んだことを総合的な学習の時間につなげることができた。
○児童が目標に向かって多様な方法を考え，実際に試してみることが児童の主体的な試行錯誤を促し，独自の体験につながった。うまくいかないことを乗り越えるために，あきらめず，他には方法がないかグループで話し合ったり，他グループの活動からヒントを得たりするなど，積極的に自分から関わり，課題を解決しようとする力が伸びた。
●主体的な学習活動になるよう計画したが，グループ内でのコミュニケーションを進める中で，友達に任せてしまったり，頼りすぎたりする児童も見られるなど，依存関係につながってしまう場面も見られ，十分にねらいに到達できない児童もいた。
●指導者は，学校生活での様々な場面において，宿泊学習で学んだ「粘り強さ」や「主体的に取り組む力」を発揮してほしいと願っているので，今後も様々な学校行事を粘り強く支援していく必要があると感じている。